

群馬のアユは取り戻せるか？

群馬県農業局蚕糸園芸課

ぐんまの魚振興室長 小泉 正人

1 ぐんまの魚振興室

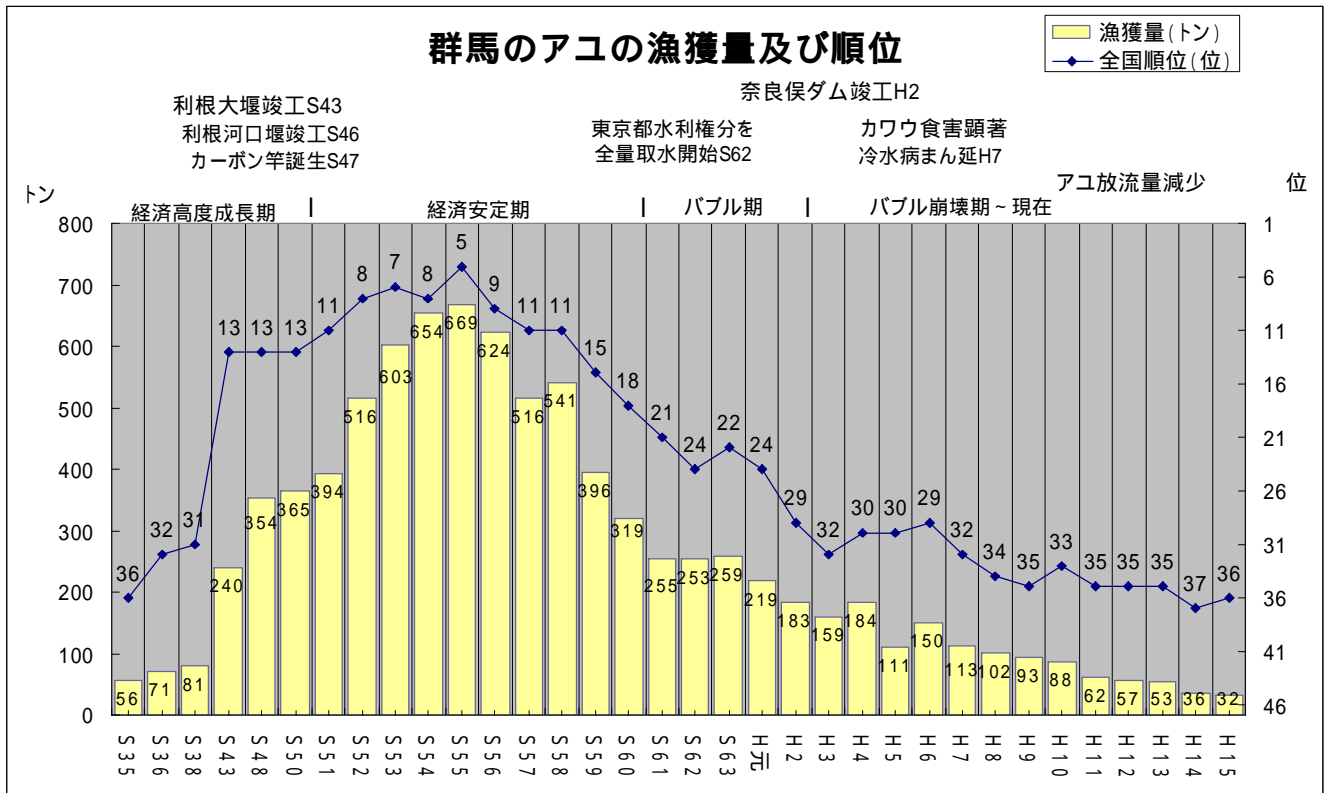
- ・ 目標「アユ漁獲量300トン！」 しかし、それだけが目標ではない。
 - *アユを取り戻す総合施策の策定、知事のマニフェストでアユの漁獲量300トン。
 - *これを推進するのが「ぐんまの魚振興室」
 - *しかし、ただアユが釣れば良いというものではない。
 - *魚を取り戻す事はもちろん、自然環境、観光など経済効果、文化など総合的見地から施策を行う。

- ・ 人と生き物が、やすらぎ・棲みやすい環境を取り戻す。
 - *洪水の防止や各種用水の確保、エネルギーの確保に必死で生き物に目が行っていなかった。
 - *アユが釣れなくなって、利益ばかり追い求めて自らの生存基盤まで壊してしまった。
 - *これを取り戻す事が必要。

- ・ 「つながり（連続性）」と「見えやすさ（透明性・きれいさ）」を取り戻す。
 - *やる施策はたくさんある。
 - *何をやるにも理念が必要。
 - *つながりと見えやすさが必要

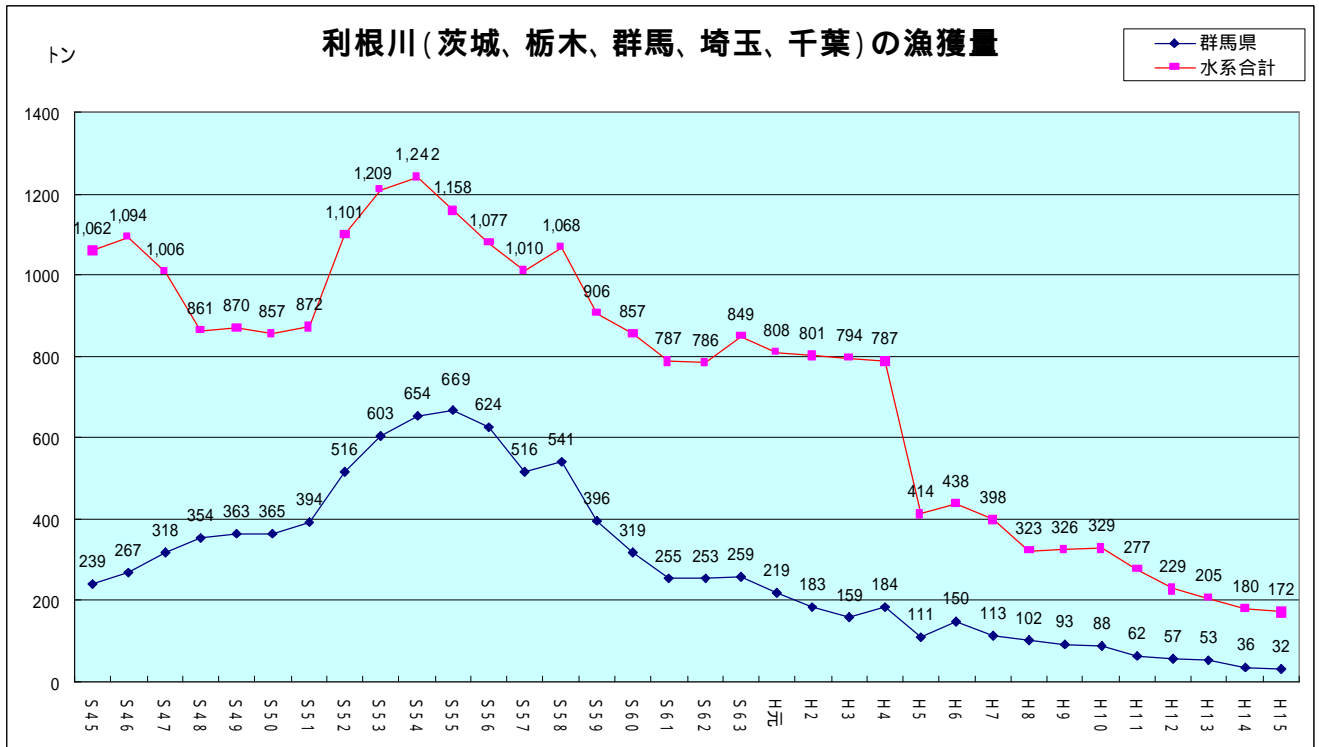
2 アユはどのくらい釣れていたのか(データから見てくるアユの現状)

・ アユの漁獲量



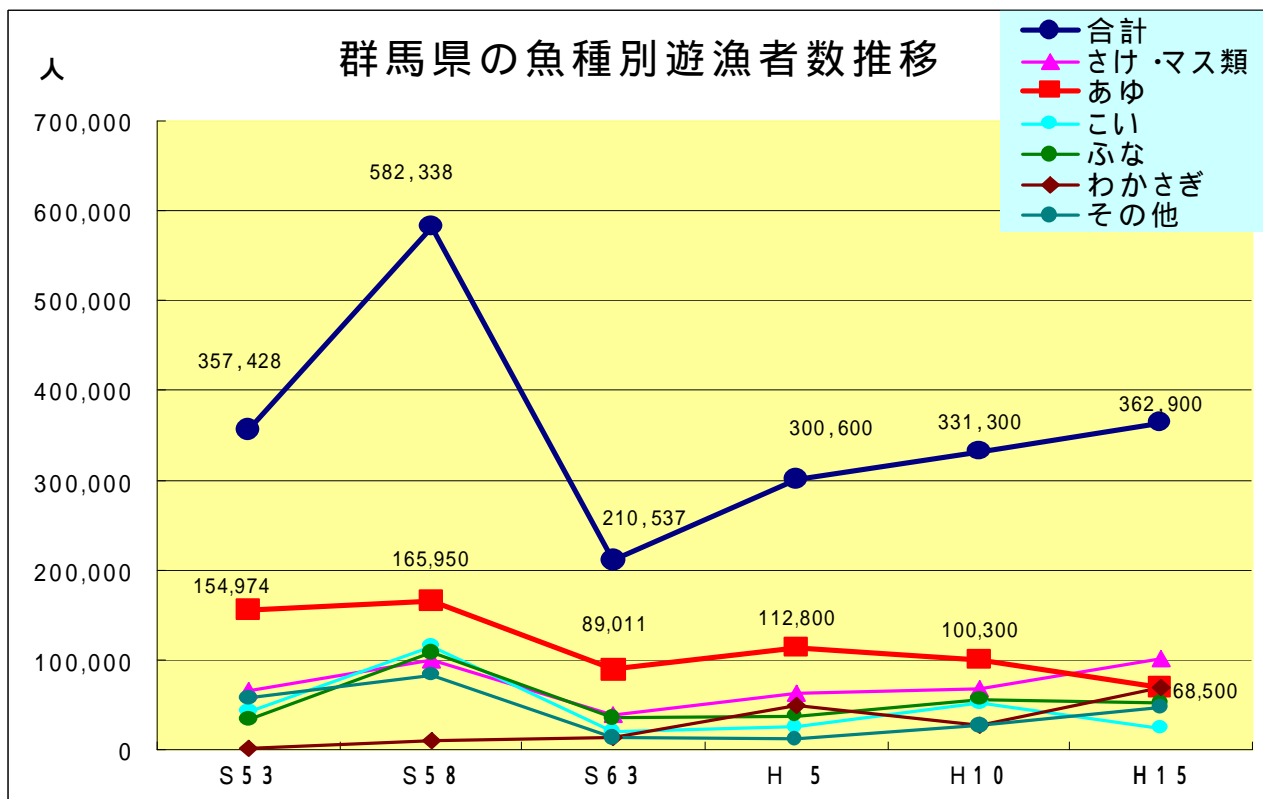
(注) 漁業・養殖業生産統計年報の数値を使用した。

・ 利根川水系の漁獲量



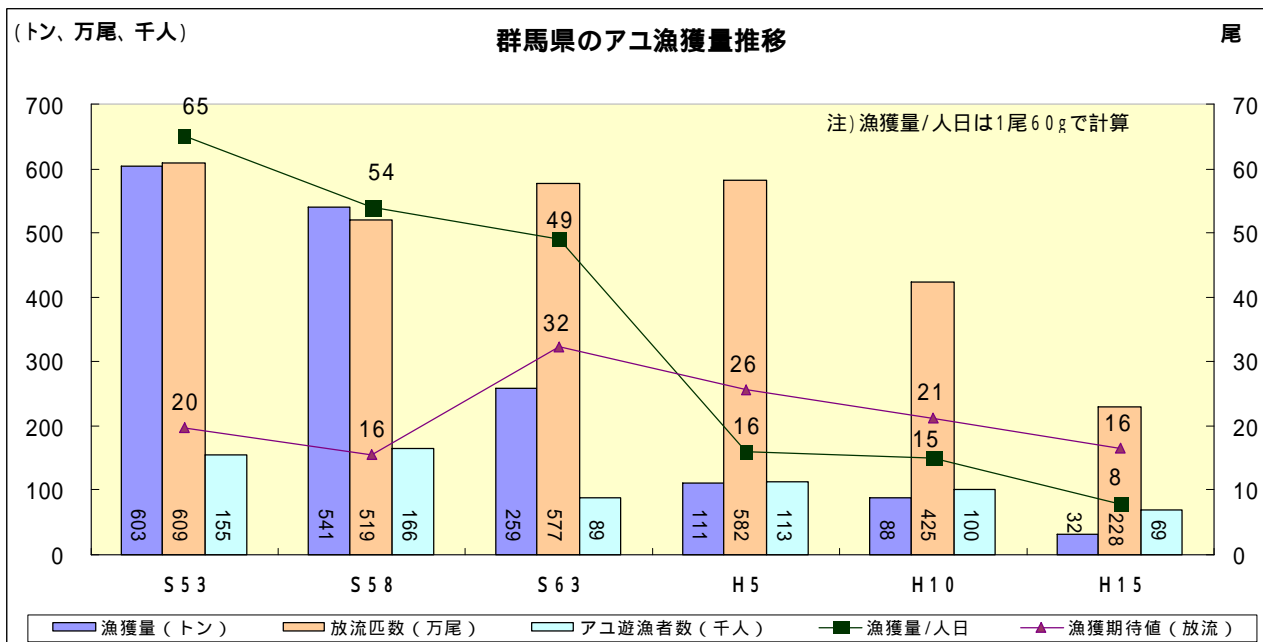
(注) 漁業・養殖業生産統計年報の数値を使用した。

・釣り人口の推移



注) 遊漁者数は、漁業センサスの数値を使用した。

・一人当たりの漁獲量



注1) 遊漁者数・放流量は、漁業センサスの数値を使用した。

注2) 漁獲量は、漁業・養殖業生産統計年報の数値を使用した。

注3) 漁獲量/人日は漁獲量を1尾60gで尾数換算し遊漁者数で除した。

注4) 漁獲予想は放流尾数に生存率70%と漁獲率70%を掛け遊漁者数で除した。

3 アユ漁の不振原因

- 川的环境悪化
(川の分断・水質の悪化・水位の変動・水温の低下・濁水の発生・瀬と淵の消失・石や礫の減少)
- 冷水病のまん延
(平成4年に湖産アユで発生、そこから全国にまん延。ひろめたのは人間である。)
- カワウの食害
(一時は絶滅危惧種に。本来は河口付近や湖の鳥。都市化の波で中流域へ移動して増加。)
- 人間の一方的都合
(川的环境悪化も冷水病もカワウの増加も、すべて人間の一方的都合による活動の結果である。)

このままでは釣り人も日本人も絶滅危惧種になってしまう。

4 アユは取り戻せるのか？

- 対症療法と原因療法

16年度は、結構、釣れていた！

予想では15年度の倍の70トンには行くのではないかと思う。

でも、300トンには程遠い。

小さい種苗を数入れて、生存率を上げ、遡上を増やす。

これはあくまでも対症療法、原因療法も必要

原因は人間、自然に謙虚で川を取り戻す人づくりが必要

- 人間の心が変われば、川は戻る。そして・・・

(川に対する態度、取り組み姿勢・考え方を換えよう。人のつながり、情報の見えやすさが重要)

川を汚さない、生態系に配慮して川の環境を守る、元気な魚の放流、病気の蔓延を防止するなど、マナーと言うより、人間の義務である。